

実施日：7月3日（5校時）	
領 域：道徳	
取組名：思いやりの心を育てる	
対 象：1年生	実施場所：1年2組
ア ねらい 相手の立場に立って物事を考え、思いやりの心を持って接していこうとする心を育てる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 準備物 資料「カーテンの向こう」（出典—心つないで：教育出版社） 導入 ・ 挿絵を見せ場面を想像させる。 ・ 資料「カーテンの向こう」を読む。 展開 ・ ヤコブの話をしている時の、私の心の中をさぐる。 ・ ニコルが死んだときの、私の心の中をさぐる。 終末 ・ 冷たいレンガの壁を見たときの、私の心の中をさぐる。 みんなを励ますために、他の人から何を言われようが、耐え抜いたヤコブの思いから、相手の立場に立って物事を考え、思いやりの心を持って接していこうとする心を育む。	
ウ 連携先：小学校（校区内2小学校）	
エ 連携にむけての取組 思いやりの心を育てるための9年間かけた学習を、小学校と連携して行っている。2ヶ月に1回の割合で合同の会議をもち、課題設定の在り方、資料の扱い方など共通理解を図りながら取り組んでいる。授業を小学校、中学校それぞれ互いに公開し、その中で、人権に関わる共通の課題についても協議し、今後の方向性を確認しながら取組を始めている。発達段階に応じて対応の方法は異なっても、9年間通して小学校、中学校が連携して課題に取り組む効果は大きいと考える。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 思いやりの心を育てるために、職員会議で教職員が共通理解を図り実施の意図など確認した。終わりの会で、自分をみつめ直す場を設け、一日の反省の中で、相手の良い所を見つけ、協力して生活する気持ちをもたせた。	
カ 評価の方法 生徒の感想文 [別紙④]	
キ 成果 相手の立場に立って物事を考えることが、思いやりの心を持って接することである。ということに気づいた。	
ク 課題 普段の生活の中で、相手に嫌な思いをさせたり、傷つけたりすることがないように、それぞれの個性を認め、相手を好きにならせたい。	